

「コミュニケーションが全ての原点」



全日本電設資材卸業協同組合連合会
会長 忍田 勉

6月、7月と各委員会および若手経営者の会研修会に、ご挨拶とお願いを兼ね出席させていただきました。総務委員会には組合内部の確固たる組織づくりを、市場活性化委員会には経営を圧迫する配送運賃の問題を含め業界に介在する諸課題の検討を、広報委員会には協賛メーカー様および組合員への役立ち強化のための情報提供活動を、経営委員会には経営に大きく関係する労働法や税法および人材育成についてスピーディーな情報発信を主にお願いたしました。又、次世代プロジェクト委員会では、将来の業界への指針づくりへの期待をお伝えするとともに、若手経営者の会研修会では、ご参加50名の方のエネルギーを体感し、この業界の宝物をしっかりと継続育成する重責を再確認した次第であります。

時代を生き抜く経営力には次の3つが必要と聞きます。ひとつは「コ

ミュニティ」地域社会との密着、共同体意識です。2つめは「キュレーション」情報を収集しまとめること、または収集した情報を分類しつなぎ合わせて新しい価値を持たせて共有すること。3つめは「コンベンティング」講演会やサークル活動、催事などのイベント企画実施力であり、単なる商売だけではない「会社の魅力そのものの発信」であります。以上の3つは、アマゾンの書店進出1995年から5年間で店舗数が43%も減少し、2009年から2015年にかけての6年間で35%増の復活をなし遂げた独立系書店の話です。

そしてその3つの原点となるものは「コミュニケーション」です。JALの再建時に稲盛氏がまずやったことは、現場での徹底したコミュニケーションでした。「社長がここまでおりて自分たちの意見を聞いてくれる」という従業員の驚きが意識改革

のスタートでした。また新入社員が会社に求める第1位の項目が「会話のある明るい職場」であり、これから伸ばしたいと思っている力の第1位は「コミュニケーション力」です。管理職の皆さんは是非とも「ハラスメント」の壁を乗り越え、部下が力を出し切れる職場をつくり、若手社員の将来性を広げてあげて頂きたいものです。当連合会も意見のぶつかりあいを恐れずに、互いの主張を論じ合う、そんな場をたくさんつくりていきたいと思えます。

最後に、蛇足になりますが、組合員から最近メーカーさん幹部とのコミュニケーションの時間、機会が以前より減っているとの声を聞くことがあります。メーカーさんとも論じ合う場を持つとともに、高所からの業界の将来へ向けてのアドバイス、ご指導の時間を頂戴できればと思えます。